

ハッチョウトンボ トンボ科

日本にいるトンボでは一番小さい種類で、1円玉くらいの大きさをしています。すんでいるのは一年中水のある浅い湿地で、特殊な環境に限られています。また、最近はうめたてなどによって湿地が少なくなってきたため、ハッチョウトンボもあまり見られなくなってきました。



写真提供：上田哲行氏

形態・生態

頭から尾の先までは16～21ミリくらい、羽をひろげても30ミリくらいです。

オスの体はヤゴからトンボに羽化して間もない頃は、オレンジがかった黄色ですが、成じゅくすると赤い色にかかります。

メスは黄色っぽいですが、黒色と茶色のはんもんがあってオスとはまったくちがっています。

ヤゴは5月から6月頃に羽化し、近くの草地や木の間などで生活をします。オスは成じゅくするとなわばりをもち、メスが近づくと飛びかかって連けつし、交尾をします。メスは浅い水面に尾をうちつけて産卵します。

調べやすい時期（成虫）

4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月

県内の分布

能登から加賀まで広く分布しており、局地的ながら30カ所以上の生息地が見つっています。しかし、湿地が乾燥するとすめなくなるので、数年間発生しただけで消失した場所がたくさんあります。

見つけやすい場所

日当たりのよい、ホタルイやチゴザサなど背たけの低い植物が生えた湿地や湿原、お米をつくらなくなってから1～3年ほどの田んぼにいます。また、山をけずった平らな空き地でも、浅い水たまりが一年中あれば、発生することもあります。本種のいる湿地の条件として、近くに林があることが大切です。